日刊 動労千葉
81.3.3
No. 677
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

3.6全国ストライキ決起まで！

第7回支部代表者会議（3/2）で最終確認

ジェット燃料貨車輸送延長阻止！スト破り助役機関士導入粉砕！木原線廃止反対！

動労千葉は、ジェット燃料貨車輸送延長阻止三月決戦ストライキの真只中の三月二日、午前十時より動力車会館において第七回支部代表者会議を開催し、三月決戦ストライキの最終的な戦術について満場一致確認決定した。

全組合員の皆さん、この支部代会議で決定された方針のもとに労働者の真の底力を発揮しあらゆるストライキ圧殺、闘争破壊策動を粉砕して総決起しようではないか。

追いつめられ、一層暴力的弾圧を策動する国鉄当局・権力

国鉄当局は、二月二十七日に至り突然、「社会的混乱をさけるため、三月二～三両日は、スト破り要員＝助役機関士は投入しない。しかし、四日以降は、絶対に投入する」なる記者発表を行なった。

この国鉄当局の発表は、明らかにわが動労千葉の去る二月十九日から一週間にわたるスト破り助役機関士線見阻止闘争の勝利的貫徹と、三月決戦スト突入一貫徹にむけた万全の闘争態勢を前に恐怖したからに他ならない。

しかし、一方では、大量の権力、公安を総動員して四日以降はなにがなんでも助役機関士によるスト破りを強行することを公言しているのである。

こうした権力・国鉄当局のわが動労千葉の三月決戦スト圧殺攻撃の強まりに対し、われわれは、万全のスト態勢を固め一糸みだれぬ団結力をもって断固としてストライキを貫徹しなければならない。

いまこそ、動労千葉の底力を発揮し、情勢を切り拓こう

政府自民党・支配階級の軍事大国化と憲法改悪をはじめとする諸反動攻撃に屈服し、産業報国会化の道を進む既成労働運動の中にあって、わが動労千葉一三〇〇組合員の三月決戦ストライキ闘争が、闘いを求め不満をつのらせる多くの労働者大衆の目を開き、一点の火花となることに何よりも支配階級自身が恐れるからである。

さらに、国労、動労中央、とりわけ動労「本部」反動分子は、われわれの三月決戦ストを前に、二〇二億「損賠」問題と引きかえにジェット延長に合意し、スト破りに率先協力し、わが動労千葉に対する公然たる敵対を強めている。

しかし、われわれは、三里塚闘争十六年の歴史が正義の闘いの歴史であるようにわが動労千葉の

ジェット延長阻止、スト破り助役機関士導入粉砕三月決戦ストライキ闘争が正義の闘いであり、労働運動の真価をかけた闘いであることにほこりを持ってあらゆる弾圧と敵対を粉砕して断固闘い抜こうではないか。

そして、この闘いは、同時に腐敗と堕落と屈服を強める動労「本部」反動分子一掃・動労大改革の闘いであり、国鉄労働運動の戦闘的転換をかちとる重大な闘いでもあることをはっきりと見すえて闘い抜こうではないか。

『第七回支部代表者会議で決定された闘いの目標と具体的戦術』

闘いの目標

1. ジェット燃料貨車輸送延長阻止
2. スト破り助役機関士導入粉砕
3. 木原線廃止反対

闘いの戦術

1. 成田、佐倉支部は、引き続きジェット燃料列車を対象とする指名ストライキを継続すること。
2. 各支部は引き続き全地上勤務者を対象とする減産闘争（B行動）を実施すること。
3. 三月四日、国鉄当局が助役機関士によるスト破りを強行した場合、
   (1) 各支部は三月五日始発時より二四時まで、特急、急行列車を対象とする指名ストライキを実施すること。
   (2) 各支部は三月六日始発より二四時まで、次の拠点において、全乗務員を対象とするストライキを実施すること。
   津田沼地区、錦糸町（お茶の水）地区、幕張地区、千葉地区、鴨川地区、鹿島（北鹿島地区）我孫子地区
4. 各支部は、あらゆる弾圧・介入に対応できる態勢の万全を期すこと。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！